

2021年11月 (No.389)

## 主な内容とページ

半導体の活況持続、品不足解消はいつか .....	1
世界出荷、2期連続で最高更新 .....	2
第3四半期半導体輸出、13年ぶりに1兆円台回復 .....	2
半導体製造装置の生産額が半導体生産額に接近 .....	3
海外組立用の増加がけん引するわが国半導体輸出 .....	4
世界主要半導体企業 37社第3四半期 34社増収 32社増益 .....	5
米半導体企業、過去にない好調な第3四半期 .....	10
マイコン誕生から半世紀(SRL だより) .....	14

## 半導体の活況持続、品不足解消はいつか

世界の半導体市場は活況を呈し、不振にあえいでいたわが国半導体も回復が顕著となってきた。

1. 半導体の世界市場は第3四半期も1年前に比べ3割近くの伸びを持続、それでも品不足は顕著で、年末が近づいても正常化、市況転換の明確な兆しは見当たらない。
2. 活況は、わが国半導体生産にも波及し、今年の半導体輸出は、過去ピークの07年の9割近くまで回復する見通し。輸入は3割近く伸び過去最高を更新しそう。
3. 品不足がいつ収まるか、誰にもわからない。しかし、在庫、納期、今後の生産計画など例年見直される年明けから中国の旧正月、冬季五輪(2月4日-20日)前後には、ある程度の方向が見えてきそうだ。

## マイコン誕生から半世紀

インテルが4ビットのマイクロコンピュータ「4004」を開発してから半世紀を迎えた。開発者の一人はわが国ビジコンの嶋正利氏で、電卓用に開発、やがては大市場となる礎となった。私自身は嶋氏とは面識あり、米データクエスト時代(1983-1989年)には著名なマイコン開発者\*らと仕事を共にする機会を得た。

マイコンで記憶に残っているのは、「これは何をやるものか」「果たしてコンピュータか」。当初は理解することも、ましてや人に伝えて理解してもらうことも、かなり苦労した。見方を変えれば、当時のコンピュータは、一般的には遠い存在で、それを小さな半導体で実現出来るのか、何やら雲をつかむような話だった。

それでもマイコンは電卓、レジスタやがては個人、家庭用パソコンと応用が広がり、コンピュータ技術を身近なものにしてくれた。わが国でもいち早く応用が進んだことは誇りと思う。マイコンは半世紀だが、それに続くのはAI(人工知能)だろうか。なんと夢があり、挑戦しがいのある分野なのかと思う。

(大竹 修)

\*シリコンバレーのコンピュータ歴史博物館(<https://computerhistory.org/>)にデータクエスト(現ガートナー)の25年以上(70年代—90年代)に及ぶ調査報告が寄贈され、閲覧可能になっている。

本誌の内容一覧、索引は、SRL ホームページをご利用ください。

<http://www.semiconresearch.co.jp/>

この資料の複写、複製その他電子的な方法等によるいかなる形での複写利用をお断りします。この資料は公開されている文書および、社会的に信用ある企業、団体等の責任者によって公開された情報をSRLの解釈と分析で表現したものです。

2021年 著作権所有 株式会社 SRL

**SRL Monthly Report**

2021年11月(毎月1回発行)第32巻11号(通巻389号)

発行元: 株式会社 SRL

〒188-0014 東京都西東京市芝久保町 3-1-35

TEL 042-439-5317 FAX 042-439-5023

編集・発行人/大竹 修

© (株)SRL 2021

**SRL Monthly Report**

November 2021, No.389

Semicon Research Ltd.

3-1-35 Shibakubo-Cho, Nishitokyo-City, Tokyo 188-0014 Japan

Mail: [info@semiconresearch.co.jp](mailto:info@semiconresearch.co.jp)

Publisher/Editor Osamu Ohtake

購読料金 1年分(12号)98,000円(税別) 107,800円(税込み)